

SINSYATYÔ[OU] HUZIWARA KARA NO ZYÔ[OU]DAN SHINSHACHO FUJIWARA KARA NO JODAN (新社長フジワラからの冗談)

われらオッサンだけでなく、現在の中学生のみなさんも、小学3[4]年次に国語の授業で「ローマ字」を習いました。ところで、小学3年次になんでローマ字を習うのか、ご存知ですか。「早いうちに英語に慣れるためだろ」「日本社会にアルファベットがあふれているため、早くから読み書きできることに越したことはない」——“現在”の文科省学習指導要領にはそれに似たようなことが書かれています。それは明らかに“後づけ”（最近になって加筆、または変更された）だと思います。

いま（新制）の小学校でローマ字履修がはじまったのは、いまからおおよそ70年前です（終戦の10年ほどのち）。当時、本当に、英語学習に対する上のような“高尚な”考えがあったとはとても思えません。だいいち、なんで「国語（日本語）」科の授業でローマ字をやるのでしょうか。「いや、そりゃ、当時は英語教科が小学校になかったから、単なる“言語つながり”では？」——違うんです。国は、「**国語**（日本語）力を高めるため」にローマ字授業を小学校に採り入れたのです。だから、国語で履修するのは。英語はもともと関係ないのです——現在、小学校では“5”年生から正式に英語を履修しますが、3年生とは時間的に分断されていますね。本当に“英語目的”であれば、時間的につながっているのがよりよく、分断がよくないことはわかりますね。それに、ローマ字学習では、英語で使用されるラテン・アルファベット26文字全部が使われることはありません。もっとも、5年生で英語の授業がはじまると、改めてアルファベットを習います。「英語学習のため」云々があとづけであって、小学校で3年次にやるローマ字授業はそもそも、英語とは関係ないことがわかります。

それ（本当のところ）がよくわかるのが、この一番上にあるタイトルです。上の**青字**が「**訓令式**」のローマ字で書かれたもので、その下の**赤字**は「**ヘボン**〔ヘッバーン〕**式**」ローマ字です。日本の小学3年で学習するローマ字は訓令式です。しかし、5年になって、英語学習において日本の固有名詞等で使われるローマ字はヘボン式なのです。先ほど書いたように、「日本語能力向上のために」小学校でローマ字を履修することになったので、日本語五十音の「音ひとつ一つ」にアルファベットを当てはめるといふ目的で、訓令式が選ばれたものと推測されます。ところが、日本語の発音により近く米英人に発音してもらえることが多いのは、明らかにヘボン式です。だから、5年次からの英語学習ではヘボン式で日本語の固有名詞等を表記します。

これがずっと続いてきたのですが、「子どもに混乱を与えているのではないか」ということで、小学生ではじめてローマ字を習う際にも、ヘボン式が使われる方向となりました。そもそも訓令式を導入するに至った上記目的自体が薄れていることも理由だと思われます。次回の小学校学習指導要領改訂から変更されるものと思われます。